

仕
舞

兼平

藤キリ

木曾

久田三津子
清沢一政
久田勘鷗

久田三津子
清沢一政
久田勘鷗

久田三津子
清沢一政
久田勘鷗

久田三津子
清沢一政
久田勘鷗

薪能

能

解説

山下あさの

「巴」

シテ

山中雅志

替装束



16:00~17:40

「面と装束をつけて

わかりやすい修羅能のお話」

山下あさの

18:00~20:10

能「巴」

チケット申込み・二月一日
問い合わせ・岡崎に能楽を広める会(岡田印刷)
電話〇五六四―二一七―五
携帯〇九〇―七六〇四―一六〇

2019.4.27 土 開場 15:30

岡崎城二の丸能楽堂

主催 岡崎に能楽を広める会

協賛 梓屯能面の会

後援 岡崎市・岡崎市教育委員会・岡崎文化協会・岡崎市観光協会・中日新聞社・東海愛知新聞社

チケット：指定席 3500 円・自由席 3000 円 (当日券 3500 円)



番組 18:00~20:10

仕舞

「兼平」 久田三津子 地謡 山田義高
「藤」 キリ 清沢一政 山中雅志
「木曾」 久田勘鷗 吉沢旭

《ワークショップ「狂言」》野村又三郎

(薪能のアイ狂言としても登場予定)

能「巴」

解説 山下あさの

シテ	山中雅志	後見	久田勘鷗
ワキ	飯富雅介		久田三津子
アイ	野村又三郎	地謡	山田義高
笛	山村友子		清沢一政
小鼓	後藤嘉津幸		吉沢旭
大鼓	河村裕一郎		山下あさの

「巴」あらすじ

木曾の山家の僧が上洛の途中、江州粟津の原で一休みしてゐると、一人の女が来て松蔭の神前で涙を流すので、不審に思ひ、その譯を尋ねると、女は、行教和尚が宇佐八幡に詣でて感涙を流した故事を語つた後、僧の郷里を問うて、木曾の人と知り、此處にはお僧と同郷の木曾義仲が祀られてゐるのです、どうか義仲の伶靈を慰めて下さいと云つたが、實は私も亡者が假に現れたのだと告げて、夕暮の草蔭に消え失せた。—中入—そこで、僧が回向をしながらその夜を過してゐると、先刻の女が甲冑姿で現れ、自分は巴といった女武者であると名乗り、此處で自分が奮戦した有様や、義仲最期の様子などを語り、その時義仲と一緒に死ぬことを許されず、形見の品を持つて獨り木曾に落ちのびた心残りの執心を晴らして下さいと、僧の回向を乞ふのである。女武者といふ點に興味を感じ、其處に重點を置いて構想した曲である。従つて、後段の奮戦の様を物語る勇ましさの中にも、女らしい優しさが感ぜられるやうに工夫されてゐる。

プロフィール

山中雅志 能楽師 観世流シテ方

昭和 52 年生。故山中義滋の次男。父及び伯父の生一左兵衛泰知に師事。4歳のときに仕舞『老松』にて初舞台。以後約 250 番、能の子方を勤める。

現在、大阪、名古屋、奈良、桜井、岡崎で演能活動、謡・

仕舞の稽古、講座を行うかたわら「エコ・ろうそく能」等の近代感覚の能の実施や「高安ルーツの能」「ありとほし薪能」「えなみ能」等の地域と能との所縁を紹介する活動を積極的に展開する。

また他ジャンル、学者・研究者との交流も多い異才派。名古屋観世会所属。(公社)能楽協会大阪支部会員。

16:00~17:40

「面と装束をつけてわかりやすい

修羅能のお話」

観世流能楽師 山下あさの

プロフィール

山下あさの 能楽師 観世流シテ方

広島市生まれ。大阪市在住。

京都薬科大学卒業。在学中能楽と出会い、卒業後内弟子修業を経て能楽師となる。観世流職分山本勝一に師事。能楽の普遍的で奥深い表現様式を伝えるべく、舞台公演・技術指導の傍ら幅広い普及活動に取り組んでいる。

年二回広島で自主公演を行う。

謡蹟探訪会主催。公益法人能楽協会会員。

坂井 孝 能面師 (能面作者)

梓屯能面の会を主宰 (岡崎・彦根にて教室)

平成 5 年岡崎市面打ち講座を受講

その後、平成 17 年より講師に就き現在に至る

横浜・大阪の能面公募展の入賞作品が舞台で使用され、その後全国各地の舞台で自作能面が使用される。

「岡崎に能楽を広める会」設立趣意書並びに「賛助会」設立の趣旨とご協力をお願い

日本古来の「能楽」は世界にその類を見ない総合舞台芸術として海外でも高く評価され愛好者も多く、また岡崎が生んだ偉大なる為政者徳川家康が最も愛し、自らも能を舞い、能を広めた古典芸能であります。

その岡崎に能舞台が無く、「岡崎に能舞台を」という関係者の悲願がかない30年前、当時の岡崎市長中根鎮夫氏の大英断により当時としては巨額の費用(約2億円)を投じて「岡崎城二ノ丸能楽堂」(能舞台)が建設されました。当初は岡崎市主催の薪能や愛好者による能あるいは謡曲・仕舞の会が盛んに行われ、能舞台が有効に活用されていましたが、時を経るとともに岡崎市主催の薪能も催されなくなり、能舞台の有効活用が影を潜めるようになりました。

そこで、市民の皆さんの浄財を投じての能舞台の有効活用を目指し、岡崎および周辺の能楽愛好者により「岡崎に能楽を広める会」を平成26年に設立し今日に至っています。今回「岡崎に能楽を広める会」が主催し「薪能」を開催することになりました。今後も設立の趣旨に沿って能舞台の有効活用目指し活動してまいりますので「岡崎に能楽を広める会」に絶大なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。